

RPJ News

2016年 8月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒115-0045 東京都北区赤羽2-45-8 ファーストビル赤羽205

TEL/FAX 03-5939-9603

毎月1回発行

E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 最近考えていること …

長野 敏宏

- 1) 御荘病院のモデルチェンジについて
- 2) “まさか”の熊本地震
- 3) 「南宇和障害者の社会参加を進める会(平成元年設立)」の保健文化賞受賞

* イタリアの精神保健視察の研修プログラムを組んだ経緯

仁木 美知子

* 事務局からのお知らせ

イタリア地域精神保健視察研修ツアー2016 参加者募集のお知らせ

* 最近考えていること…

長野 敏宏

この半年、公私共にいろいろなことがありました。長年準備を重ねてきた御荘病院の精神科病床の閉鎖を伴ったモデルチェンジ、“まさか”の熊本地震、ちょっと嬉しい南宇和障害者の社会参加を進める会の保健文化賞受賞。まだまだいろんなことがありましたが、このあたりに焦点を当てて原稿を書かせていただこうと思います。仁木さんから「何でも自由に…」と書いていただいたので甘えます。

1) 御荘病院のモデルチェンジについて

急性期精神科病棟 50 床を核とした精神医療体制を構想してから約 20 年。地域の支援体制づくり、精神障害者が排除されない地域づくり、皆で生きていくための地域づくりを多くの皆さんが試行錯誤、実践してきました。精神科医療にとっては、第一段階の期が熟したと考え、今年 5 月末病床閉鎖を伴うモデルチェンジに踏み切りました。無いものを創ってだけでなく、「有るものを無くす」「有ったものが無くなる」ことはとてもとても難しいことです。どんな課題を抱えているものでも「無くす」ことは決して簡単ではありません。今回のモデルチェンジを経て、ますますそのことを実感しています。もちろん、「やはり精神科病床が欲しい」という考えは全く浮かんではいないですし、本当に今回思い切って変革してよかったですと感じていますが、すべての方が地域で暮らし続けながら適切に必要な最小限の精神科医療を受けていただけるようになるためには、まだまだ課題が山積しています。むしろ課題が増え続けているようにさえ感じます。ヴィレッジセミナーで、はじめに勉強したダックのおもちゃを捨てサキソフオンを練習するビデオが脳裏をよぎります。これまでの取り組みは、ダックのおもちゃを持ったまま実践してきたものだとして改めて認識させられています。また、宇和島病院の病棟に 10 名ほど入院されていたり、他地域への(悪い意味での)従来型の入院が散見されたりしていて、ダックを捨てきれない状況ですので、まだまだ次のス



御荘診療所に衣替えをした旧御荘病院



ダッキービデオの雰囲気

ページに行くにはかなりのハードルがあることも改めて認識を強くしています。

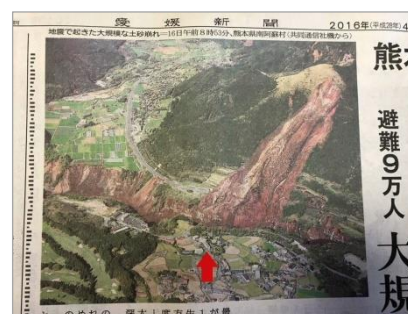
まだ、具体的に整理し切れていませんが、見えてきている風景はこれまでと全く違います。(珍しく精神科医としては)特に、「どう診断するか」ということに、“さらに”エネルギーを注ぐようになってきたような気がします。地域生活支援は「ご本人の希望や生活」を基に行われるものです。しかし、いまさら言うまでもないのかもしれませんが、現実的には他医療機関や介護施設なども含む福祉資源の利用や連携、また年金などの社会保障などすべてが「診断」の上に成り立っています。「診断」が独り歩きしがちになります。改めて、たった一言で終わってしまう「診断」がどれだけ大切か、未熟な精神科診断がどれだけご本人の生活や人生に影響を与えているか痛感しています。医師だけでなく、支援者にも「診断」を常に見直す視点と力が必要です。他にもいろいろあります。少しずつ整理していきたいと思います。

2) “まさか”の熊本地震

こちらは大変申し訳ないのですが、プライベートな話を中心にになります。長女が南阿蘇村にある東海大学農学部に通っていて被災しました。

東北はじめ各地の自然災害、社会の課題、大抵のことは「自分のこと」として考えてきたつもりでした。しかし、やはり本当ではなかったことを突き付けられたのが熊本地震でした。“まさか”と思ってしまいましたし、今も現実感が十分にはありません。

4月14日の地震(いわゆる余震)、心配はしましたがすぐ長女とは連絡がとれ無事を確認、生活もなんとかかなりそうでした。16日の深夜、自分は愛南町で当直中、緊急地震速報と大きな揺れで目がさめました。あわてて連絡をとったら、LINEでひとこと「生きてる」というメッセージでした。全く被害の詳細は分かりませんでしたが、ただならぬ様子に即熊本行きを決断しました。当直を交代してもらい、中野さんに同行をお願いしました。2次被災し皆さんに迷惑をかけるわけにはいけませんので、行けるところまで行って野営などをしながら南阿蘇に入れるタイミングを図ろうとその準備をし、八幡浜 5:55 発白杵行きフェリーに乗りました。徐々に明るくなるにつれて次々と被害状況が報道されはじめました。長女とはLINEとTwitter(災害時のSNSは必須です。FBより前述のふたつがおすすめです)で連絡がとれていて、近くの小学校跡に避難しているとのことだったので安否は心配しなくていい状況でしたが、周囲の被害の状況はつかめていないようで、こちらの情報を伝える形になりました。フェリーを降りる直前に阿蘇大橋の崩落を知り、さらに不安を強めながら南阿蘇に向かいました。長女が住んでいたのは阿蘇大橋からわずか100mほどのところ(写真の赤い矢印)“まさか”の連続でした。多方面から道の状況などの情報をいただきながら、引っ越しなどで何度も現地に行っていて土地勘があったこともあり、比較的スムーズに10時30分頃には現地入りできました。ちょうど、負傷者等のトリアージがほぼ終わり最後のドクターヘリが飛び立とうとするタイミングでした。その風景は壮絶で、いたるところに崩壊したアパート、いたるところに崖崩れ。男子学生たちは必至で建物の下敷きになっている友人の救助を手伝っていました。ただ、南阿蘇から少し大分側に離れると被害は大幅に少なかったこともあり、長女と一緒に避難していた仲間15名をそれぞれの郷里に送り返すことを決めました。このグループが今後一緒に震災から(いろいろな意味で)回復してくために大切だろうと考えました。恥ずかしながら、手前みそな考えですが「自分だけ逃げてしまった」という罪悪感を少しでも緩和させてやりたいと思ったのです。幸いタクシーを2台チャーターできたので、自分の車とあわせて皆を白杵港へ。八幡浜に岡山から学生の保護者と愛南町から尾崎さんが迎えに来てくれることになったので、学生12名だけをフェリーに乗せ、福岡、山口に帰る学生3名を小倉まで送りました。熊本に向かう多くの自衛隊車両とすれ違いながら、中野さんと愛南についたのは出発してちょうど24時間経過した翌朝4時でした。その後もほとんど眠れず、翌午前中には、愛南町まで避難した6名のうち、6時間以上建物の下敷きになっていた学生を病院で全身検査に。幸い大きな骨折などはなく胸をなでおろしました。それから、全国



阿蘇大橋 (Wikipedia:フリー素材)

各地に皆を送り、なんとか第一段階のミッションを終えました。

その後今日まで、妻や長男次男も一緒に 9 回熊本に足を運びました。ただ、現地でも東北でお世話になっている CLC の池田さんたちをはじめ支援者にも会い、また支援に駆けつける仲間たちとも連絡を取り合いながら、また、職場から支援活動に派遣させてもらい…、公の立場としてもなんとかできることをしようと考え続けましたが、お恥ずかしいことにすぐ頭の中は娘とその友人たち、現地ととにかくお世話になった大家さんのことで一杯になるのです。今でも全く切り替えができません。当面は「私」の立場を主に関わっていかうと考えています。

娘たちは南阿蘇村から熊本市内に引っ越し 7 月から別のキャンパスで授業再開。8 月 18 日から遅い夏休みに入っています。震度 5 クラスの余震もまだ続いており、生活が落ち着いたとはとても言えない状況ですが、東海大学の支援、先生たちの配慮にととても感謝しています。また、一緒に避難した友人たちと熊本で私自身も会ったり、また 5 月の連休、先週の木曜から今日(9 月 1 日～5 日)には、愛南まで釣りに来てくれました。9 月娘は帰れなかったのですが、私たち家族との交流が続き、彼ら彼女たちが少しずつ前に向かっていくのをとても嬉しく思っています。若い皆の力を本当に再確認させられています。今後の自分の生き方に大きな大きな影響がありそうです。

先日熊本に行ったときは、南阿蘇だけでなく、益城などにも足を運んでみました。とにかく厳しい状況がまだまだ続いています。全国各地の水害や台風被害の様子も連日情報が入っています。本当に、足元も含め、踏ん張り時だと思えます。

体験していない状況で、どんなに真剣に考えていても“まさか”なのだと思えさせられています。災害だけではありません。病気、障害、その他ありとあらゆる生活のこと…、常に謙虚に「自分のこと」として考えておかなければならないと思知らされます。まあ、一方で「そんなことは無理だし、しんどいので、そこそこで…」と楽天的に思うこともあります。バランスが難しいです。

ひとつだけ結論がでたことがあります。「危機の場面では、とにかく頑張りすぎない。普段はなんともない言葉や態度でも深く深く突き刺さり、抜ききれない棘のように残り続ける。おだやかに、ゆるやかに、しなやかに…」当たり前のことなのですが、一番苦手なことなので、どうしようか悩んでいます(笑)

3) 「南宇和障害者の社会参加を進める会(平成元年設立)」の保健文化賞受賞

先日、受賞決定の通知をいただきました。とてつもなく多様な地域住民の集まりで、自分たちが大きく壊すことなく、28 年積み重ねてこれた嬉しさもあるのですが、昭和 63 年やどかりの里が保健文化賞を受賞したとき、谷中輝雄さんが御荘に(会の立ち上げの大きなきっかけとなった)講演に来られている時で、その受賞の知らせをホテルサンパールで受けたとの話を聞いたことがあって、30 年の時を経て、ここにつながってきたのかな…と感じ、とても興奮しました。受賞を未来に向けての土づくり、種まきにどう活用するか考え中です。



活動のひとつ「御荘夏祭り」参加

だらだらと書かせていただきました。最後まで付き合ってくださいました方本当にありがとうございます。また、感想やご意見をぜひお聞かせください。

* イタリアの精神保健視察の研修プログラムを組んだ経緯

仁木 美知子

精神保健福祉交流促進協会では毎年、イタリアの精神保健視察研修を開催しており、既に 10 年が経過しております。トリエステ、ヴェローナの 2 か所で始まった研修プログラムは、アレツォとヴァルディキアーナが加わり内容は年々、広さと深さを増しております。

研修の第 1 回は 2006 年に実施し、昨年 2015 年まで毎年開催で 10 回を数えました。そしてその間の参加者は延べ 170 名にのぼります。第 1 回研修は故谷中輝雄協会前理事長、藤井達也先生(イタリアの

精神保健研究者、上智大学教授)の熱い思いが込められての実現でした。アレツォは2008年、ヴァルディキアーナは2012年から企画に組み込みました。いずれも現地の先生方と顔の見える関係での研修依頼となっております。特にヴェローナ大学教授の精神科医ロレンゾ・ブルチ先生(Prof.Lorenzo Burti)、元アレツォ精神保健局長の精神科医アルド・ダルコ先生(Dr.Aldo D'Arco)には数回来日して頂き、多くの講演会の講師をして頂きました。トリエステで活躍されている専門家を日本にお招きしての講演会は、ここ数年各所で見受けられますが、ヴェローナやアレツォからお招きしているのは当方のみであると自負しており、イタリア=トリエステと思われる専門家が多いと思いますが、多少違ったイタリアの精神保健を知っていただくことで、奥の深さを感じて頂けると思っております。

今年も11月に11回目となる「イタリア地域精神保健視察研修ツアー2016」を開催します。2017年度以降の開催は未定となっておりますので、是非この機会にご参加ください。お待ちしております。



*** 事務局からのお知らせ**

イタリア地域精神保健福祉視察研修ツアー2016 参加者募集

締切り日変更のお知らせ

期 間 平成28年11月15日(火)~24日(木) 10日間

募集人数 15名程度

参加費 398,000円 燃油サーチャージ・空港諸税は別途(¥19,000程度)

締切り 10月5日(水)

スケジュール

11月15日	火	成田/羽田空港発→経由地→トリエステ
16日	水	トリエステ研修
17日	木	トリエステ視察→ヴェローナへ
18日	金	ヴェローナ研修
19日	土	ヴェローナ視察→フィレンツェへ
21日	月	アレツォ研修
22日	火	ヴァルディキアーナ研修
23日	水	イタリア出発→経由地
24日	木	成田/羽田空港着

※往復の飛行機やイタリア国内移動・宿泊地・研修視察日時は変更になる場合があります。

※ホテルはツインルームを2名で使用していただきます。

(シングルユースは追加6.5万円必要です)



—編集後記—

関東の水不足解消と喜べない台風の襲来です。9号が8月22日千葉に上陸、関東各地で交通機関の乱れや大規模な冠水が起きてしまいました。そして迷走を続けた10号が30日に岩手に上陸、高齢者グループホームでの大惨事などを招いて、9月5日の今日現在でも孤立が解消できていない地域があるとニュースが伝えています。そして12号が九州で猛威を振るい、熱帯低気圧に変わったものの9号10号でダメージを受けている地域での災害を注意しなければいけないのでしょう。今日の東京は真っ青な空の真夏日となっておりますが、皆様の地域は如何でしょうか? 9月1日防災の日のニュースでは防災イベントを多く放送していましたが、予行訓練の重要性を感じさせられます。(Mamoru.N)

〒115-0045 北区赤羽2-45-8ファーストビス赤羽205 TEL/FAX03-5939-9603